

# さっぽろ 市議団ニュース

2013年10月15日  
No.83

日本共産党市議団事務局発行  
電話 211-3221 FAX218-5124

## “子どもの心の診療”の拠点病院めざせ 児童心療センター問題で小形議員が質問 決算委

今年3月に医師5人中4人が同時に退職し、市は「児童心療センターの安定的な運営形態等の検討」を児童精神科医療検討部会審議会に諮問し、近く答申が提出される予定です。

小形香織議員は10月9日の決算特別委員会(Ⅱ)で、「検討部会の審議のなかで、入院機能を廃止すべきという意見はありましたか」と質し、天田障がい保健福祉部長に「廃止の意見はなかった」とハッキリ答弁させました。その上で「東京以東、子どもの心の拠点病院となりえるのはここしかない。全道を視野に児童心療センターの24時間入院機能を維持し、子どもの心の診療の拠点病院をめざすべきではないか」と提起しました。

また小形議員は、自閉症児のための道内唯一入院施設をもつ「のぞみ学園」についても「単に福祉への移行でなく、利用者や親の願いにも答え、福祉と教育と医療のより密度の高い連携を築くべきではないか」と述べ、全国的にも高い評価を得ている三重県立子ども心療センター「あすなる学園」の取り組みについて「入院治療管理システムにより各職種が連携して治療にあたっている。医師を中心に各職種間の連携がしっかりしている」と、大いに三重を参考にすべきと強く主張しました。

## 公園トイレの増設・バリアフリー化を 決算委 井上議員が質問

井上ひさ子議員は10月11日の決算特別委員会(Ⅰ)で、公園トイレの増設とバリアフリー化の促進について取り上げました。

その中で井上議員は、「大型の公園(総合公園、地区公園、近隣公園)にはトイレは100%設置されているが、小型の街区公園(旧児童公園)については設置がストップしている。街区公園のトイレの設置状況と今後の増設計画はどうなっているか」と質しました。また、バリアフリー化についても「公園は夏祭りでの利用や高齢化が進む中パークゴルフなどの利用が増えている。テンポを上げて増設すべき」と求めました。

北原みどりの施設担部長は「現在、街区公園のトイレの設置率は74%となっており、トイレの公園全体に占める管理費の割合が非常に高いなど課題がある。今後については、利用状況を勘案して適正配置をめざして検討していきたい。お年寄り、子ども、障がい者など誰もが利用するトイレのバリアフリー化の推進は重要だと認識している。'12年度で32%の達成であるが、国の指標を達成する方向で考えている」と応じました。